

相生山オアシスの森を散策

2020.3.19



徳林寺鐘楼でベトナム製の鐘を突く



観音菩薩前でリーダーから相生山の話

地下鉄鳴子北駅の集合場所には、時間前にも関わらず、既にクラブの方々が多数集まっておられました。久しぶりにお会いする方も見え、おしゃべりが盛上がっていました。

新型コロナウイルスの影響で、外出を控えられていた反動もあったのか、ストレスの解消を兼ねて参加された方が多かった様に感じました。

集合時間の9時30分には27名集合。天気も大変良く、この季節としては温かく絶好のハイキング日和でした。

てな！調子で時間が来たところでスタート、開始直後いきなり急な階段から始まりましたが、久しぶりなので皆さん息が上がるより先に会話が弾み、口が回っていました。相生山に向けて100段程の急階段を上りきると、そこは昭和初期に別荘地として開発されただけあって立派な別荘の広い敷地があり、敷地沿いの砂利道を進んで観音菩薩前に到着しました。

ここでリーダーから相生山散策の説明を受けた後、徳林寺へ直行、徳林寺は大正末期から昭和初期にかけて相生山を開発するにあたって高岡徹宗氏が土地を寄進し、御堂は熱田白鳥慧光院を移築、徳林寺自体は千葉県から移して創建された。境内にはベトナム製の鐘楼があり、鐘突きを楽しんだ方も見えました。

徳林寺の広場を横切り見晴らし台を抜け、葉書塔へ向いました。この葉書塔には、昭和2年に新愛知新聞社（後の中日新聞社）が募集した「愛知新十名所」を募集した時集まった850万枚の投票葉書が収まっています。募集の結果「相生山」は5位での入選でした。塔の中を覗くと葉書が積み上がっていて、葉書供養塔と言った感じでした。葉書塔を抜け、クリスマスローズ・ミツマタ・ユキノシタ・早咲き桜・ミツバツツジ等の花を横目に歩き、うぐいすの今年初のさえずり聞きながらオアシスの森へと向かいました。



名古屋駅ビューポイントで眺望を楽しむ



相生山を愛する仙人からお話を聞く

オアシスの森では相生山を愛するヒゲの仙人にお会いし、浮世離れの奇怪なUFOの話をお伺いしました。

お話を聞きながら小休止。いよいよオアシスの森散策を開始、オアシスの森は民間地権者の借地も含まれていますが、ボランティア活動で竹林や雑木林は良く整備されていました。

山道はぬかるみも無く、落ち葉が積もってはいましたが、口は滑っても足元は滑らない歩きやすい遊歩道でした。

この日は遠足中の園児と各所で遭遇、園児の笑顔と交わす挨拶に癒されながら20～30分程度の散策で、最後の目的地名古屋駅ビル見晴らし台へ、ここで金山・名駅方面の景観を眺めながら今回の目的地の一般コースを終了しました。

帰りは地下鉄相生山方面と弥富通り方面のチームに分かれて帰路につきました。相生山帰途チームは来た道とは違うコースで、オアシスの森を横切って戻りました。帰路は往路より山谷が多く、息が上がるコースとなりました。

さすがにこの頃になると後ろの方で休憩・休憩との声が上がりましたが、途中の狭い山道で休憩場所は無く、探している間にオアシスの森の出口についてしまいました。出口の広場で休憩した後、相生山駅に向けて自由解散となりました。

汗ばむような温かい日差しの中で比較的短いウォーキングでしたが、春を満喫出来、楽しい時間を過ごせました。

新型コロナウイルスの影響から、昼食会は中止となりましたが、その後ビール補給に走った方も多く見えた様です。

最高ののど越しだったと想像します。

記 32期 上本 規義